

記

二年 筆順 10
クン キ するルす

成り立ち



糸すじのかたちをあらわし、「糸すじ」のいみをあらわした「己(碑876)」と、「ことば」のいみの「言(2年121)」とを組み合わせでつくった字です。

「糸すじのようにながく」「ことば」をつづけて「かきしるす」といういみをあらわした字です。

「かきしるした「文」といういみにつかうこともあります。

また、「ここにしるす(おぼえる)」といういみにもつかわれます。

さらに、「しるし」といういみにもつかわれます。例記号。

使い方

▽わたしは、まい日、ねるまえに、日記をつけています。
▽紫式部は、いまから千年ちかくまえに、「源氏物語」というながい物語を、かき記しています。

熟語例

▽記入(かき入れること。「かつこの中に、なまえを記入しなさい」などといいます。)
▽記事(しんぶんやぎっしにかかれた文しよう。「オリンピックの記事が、しんぶんについでいた」などといいます。)
▽記録(あとまでのこるようにながくかき記したものとくに、きょうぎなどのせいせきをいうことがあります。「マラソンで、せかい新記録が出ました」などといいます。)
▽伝記(ある人の一生を、伝え記したものと。「夏目漱石の伝記をよみました」などといいます。)
▽暗記(かかれたものを見ないで、そらでいえること。「きょうかしよを暗記するほどよみました」などといいます。)

使い方

▽「ことしも帰郷する人のれつで、しんかんせんのホームはいつばいす」などとテレビのアナウンサーがいました。

▽「もう下校のじかんだから、はやくおうちへお帰り」と、先生がおっしゃったので、ランドセルをしよって帰宅しました。

▽学校からの帰りみち、白いネコを見かけました。とてもかわいらしいネコだったので、うちにつれて帰りました。

▽そうりだいがんが、アメリカから帰国しました。

熟語例

▽帰宅(じぶんのいえに帰ること。)
▽帰郷(故郷に帰ること。)
▽帰省(故郷へ帰ること。帰郷とおなじみですが、「帰省」のほうは、ごぶさたしていたおとうさん、おかあさん、ともだちなどに会いに帰る、というときにつかうのです。)
▽帰国(がいこくへいつていた人が、じぶんの国に帰ること。)

帰

二年 筆順 10
クン キ かいルるルす

成り立ち



手(ヨ)に「帚」をもったかたちをあらわした「帚」は「掃除」をいみする字です。おかあさんは、いえの掃除をして、おとうさんの「お帰り」をまちますね。帰の「リ」は「お帰り」の「リ」だとかんがえて下さい。

「本字は「歸」で、「婦」の意味の「帚」と「止」と「自」との会意字である。「婦人が止まるべき所に止まる」ことを表した字で、婚家に「とつぐ」ことが本義である。「かえる」意味の字には、「返」「還」「復」などがあるが、「帰」はその人の居るべき所にかえることを表す時に用いる。」